





し尿収集作業での安全衛生教育用ビデオ教材の活用 - OSHMS 導入作業を通じた参加型安全衛生活動の推進 -		
ガイドラインステップ		・OSHMS ・自主的活動
1～8・12～16	キーワード	・参加型安全衛生活動 ・ビデオ教材 ・リスクアセスメント
改善・取組みの背景と課題	<p>地方自治体の〇市では、部署ごとに10の安全衛生委員会を設置し、年度ごとに策定する安全衛生計画に沿って安全衛生活動を行ってきたが、労働災害発生件数が年間60件程度で推移し、安全衛生活動方法の全般的な見直しが必要であると考えられた。そこで、安全衛生委員会で調査審議した結果、OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)を導入することが決定され、外部の専門家の協力を得ながら、3年計画でOSHMS導入作業を進めた。</p> <p>第1ステップとして、10の安全衛生委員会関係者を対象に、OSHMS概要(基礎)研修を1回、OSHMS導入研修を4回にわたって実施。第2ステップとして、職場での自主的な安全衛生活動の定着を目指し、10の安全衛生委員会ごとにリスクアセスメント研修を実施した。第3ステップとして、部署(安全衛生委員会)ごとの課題を把握し、その課題を改善するための目標を設定し、リスクアセスメントを継続しながら、部署(安全衛生委員会)ごとに安全衛生活動を進めている。</p>	
改善・取組みの着眼点	<p>清掃(し尿収集)安全衛生委員会では、以下の点に着目しながら活動を進めた。</p> <p>それぞれの職場のリスクに対応できる安全衛生対策ツールを、当事者が参加し、リスクアセスメントの考え方を取り入れながら、当事者自身の手で作成する。</p> <p>当面は、職員向けの安全衛生教育用ビデオ教材の作成を目標とする。</p> <p>OSHMSを導入し、自主的で継続的な安全衛生活動の定着を目指す。</p> <p>地域の実情や地域住民の要望に配慮。</p>	
改善・取組みの概要	<p>研修はすべて職場巡視を取り入れ、その結果をもとに良好事例、改善事項についてグループ討議するなど参加型で実施した。また、部署(安全衛生委員会)ごとに、リスクアセスメントの考え方を取り入れた課題を設定し、それに沿って、活動が継続するよう一定期間で実施する目標を自分たちで設定してもらった。</p> <p>清掃(し尿収集)現場では、過去の職場巡視時に撮影していたビデオ映像を編集し、ビデオ映像によるリスクアセスメントを試みた。ビデオ映像を見て、実際に職場巡視をしたつもりになって、グループ討議で「良い点」や「改善が必要な事項」をリストアップし、改善策について検討した。また、その後の作業として、職場巡視時に撮影した映像をもとに、リスクアセスメントを行いながら、安全衛生教育用のビデオ教材を作成した。</p>	

<p>写真・図表・イラスト</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>安全衛生教育用ビデオ</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>緑のテロップは良好</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>黄色のテロップは注意</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>赤のテロップは危険</p> </div> </div>			
<p>効果</p>	<p>清掃(し尿収集)現場では、以前から職場巡視時にビデオ撮影を行っている。その膨大な映像の中から、良好事例、改善が必要な事例、注意が必要な事例を抽出して、ビデオ映像を編集し、安全衛生教育用ビデオを作成した。一連の作業は、労働者自身の手によって、リスクアセスメントという新たな手法を使い、労働者参加型で行われた。映像には、良好な作業状態を緑色で、危険な作業状態を赤色で、注意を要する作業を黄色と黒で色分けしたテロップが挿入され、新人向けの教育ビデオとして、分かりやすい内容となっている。</p> <p>また、OSHMS 導入作業を開始して2年間で、〇市全体の労働災害発生件数が半減(55件 41件 28件)し、当該職場でも減少(8件 4件 1件)した。</p>			
<p>このGPSの経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>忙しい中に OSHMS という新しいシステムを導入することとなり、職場から負担感や不満感が訴えられ、作業開始当初は混乱した。</p> <p>自治体は、事務系をはじめ、清掃、教育、学校給食、保健、福祉、医療、消防、上下水道など様々な業種の集合体であるため、それぞれに適したアプローチが必要となり、研修などの準備に時間を要した。</p> <p>清掃(し尿収集)現場では、収集現場が無数にあり、しかも、通常作業と並行して関係者全員で現場に出向くことは不可能なので、職場巡視時に撮影していたビデオ映像を使ってリスクアセスメントすることとなった。現地での職場巡視と比較すると、情報量が限られ、編集作業にも手間がかかるが、リスクアセスメントが効率的に実施できた。</p>			
<p>参考資料</p>	<p>1) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原 邦夫, 堤 明純, 山口秀樹, 丸山正治: 自治体職場への OSHMS 導入 - 導入途上の状況と今後の展望 -, 労働安全衛生研究, 3(1), 11-16, 2010</p>			
<p>投稿者</p>	<p>渡辺裕晃</p>	<p>e-mail</p>	<p>h-watanabe@city.omuta.lg.jp</p>	<p>2010年10月29日</p>